



課題探求プロジェクト最終報告会を開催しました

2019年1月23日(水)、約2年間のプロジェクト活動を終えた国際地域学部地域創生アプローチ3年生(1期生)を中心に課題探求プロジェクト最終報告会を公開授業形式で開催しました。課題探求プロジェクトは、本学部のカリキュラムの柱として県内の企業・自治体等と連携してインターンシップやヒアリング調査等を行う授業です。アクティブラーニングの手法である課題解決型学習(PBL)を取り入れ、学生が主体的に企業や地域に赴き、地域課題解決に向けて学びを深めてきました。今号では、報告会の様子や活動成果、学生の声をご紹介します。

報告会では、3年生11チームが、15分間のプレゼンテーションを行い、地域課題やその解決策の提案、新商品の開発等について発表しました。活動1年目の2年生及びグローバルアプローチの学生は、ポスターセッションで連携企業等の基礎学習の内容や次年度への活動展開について報告しました。

当日は、連携企業・自治体の皆様及び保護者の方々等を含む、総勢100名のご参加があり、たくさんのご意見ご感想をいただきました。皆様のご協力とご声援に感謝申し上げますとともに次年度もますますのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

チーム	3年生のテーマ・報告タイトル(15分間のプレゼンテーション)
A	企業の海外事業展開「ASEAN圏での離職率を下げるためには?~フクビ化学の海外事業から考える~」
B	企業の新商品・新規アイデア開発「中小企業における採用改革」
C	伝統工芸品の新規戦略「デザインシンキングを用いた伝統工芸品の新規戦略」
D	観光コンテンツ・サービスの提案「あわら温泉の雇用改善・集客・地域活性化を目指すインターンシップの提案」
E	インターンシップ事業等の改善「福井県インターンシップのプログラム拡大」
F	地域交通事業の改善「バス会社が交通弱者を支える方法とは-過疎地域におけるデマンドバスのニーズ調査を通じて-」
G	企業の社会貢献への参加・提言「こども食堂との連携による県民生協の新たな地域貢献」
H	「地域ブランド」の開発「大野市お土産品開発をめぐる」
I	地域課題をテーマとした番組政策「地域に根づく伝統行事の継続に 関する映像制作」
J	中山間地域活性化策の実態と評価「関係人口に着目した 中山間地域問題の解決策」
K	市民参加型イベントの企画・運営・評価「芸術文化を通して障がいがある人と社会がつながる機会づくり」
チーム	2年生のテーマ(ポスターセッション)
A	建築業界における職人不足に対する解決策の提案
B	これからの消費動向を踏まえた小売店舗のあり方
C	地域金融機関の地域貢献活動
D	人口減少問題をかかえる地域における地方鉄道の取組
E	地域の諸課題に関する取材・番組制作
F	門前町の活性化のための企画検討への参加・提案と実地調査
G	駅前中心市街地活性化のための企画・運営・調査
H	中山間地域の農林業・農山村活性化の実践と評価
I	福井市中央公園における『ローマの休日』野外上映会の実施(グローバルアプローチ3年)

各チームの報告テーマ



報告会の様子

大勢の来場者を前に緊張気味の学生もいましたが、2年間の集大成を堂々と発表することができました。3年生Cチームは、デザインシンキングを用いて3Dプリンタで製作したスプーンを会場内で披露しました。3年生Iチームや2年生Eチームは、自分たちで企画し、撮影した動画作品を放映しました。

休憩時間中は2年生のポスターセッションも行われ、次年度の活動に向けてたくさんの方から直接アドバイスや励ましの言葉をいただきました。報告会終了後も地域のイベントや連携先での報告会等、様々な発表の機会をいただいています。春休み期間中もまだまだ活動中の学生たちです。



会場の様子



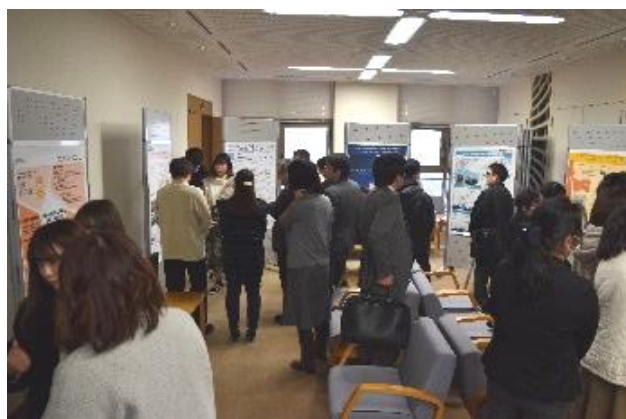
プレゼンテーションの様子



休憩中の様子



制作動画の鑑賞



ポスターセッションの様子



学生が制作したポスター

学生発案の商品が販売されます！

私たちは大野市の地域ブランドを目指すお土産品開発グループにお世話になりました。大野市の食品関連業者が集まり、主に若い女性をターゲットとしたお土産品を開発するグループです。自分たちの提案を商品化させることを目標に、地元のお土産品売り場でインタビューをしたり、国際地域学部の1,2年生に試作品の試食会を企画してアンケートをとったりしました。

最終的に、S君が発案した『醤油カツバーガー』が商品化され、「平成大野屋」「パナデリア」で来年度から販売されることになりました。自分たちの提

地域創生アプローチ3年 Hさん(Hチーム)

案が実際に商品化されて、とても嬉しかったです。また、大野市でのお土産品開発における課題についても理解を深めることができました。ご協力いただいた大野市の食品関連業者の皆様、ありがとうございました！見かけたらぜひご賞味ください！



発売予定の醤油カツバーガー

『繋ぐ 無形文化財と地域』DVDを制作

私たちは地域課題の映像制作をテーマに活動を続け、3年次では地域に根づく伝統行事取材することになりました。私が住む福井市の安居地区では古くから続く「オシッサマのお渡し祭り」という伝統行事があります。近年若者の人口流出により伝統行事を継承することは容易なことではありませんが、様々な課題や葛藤に直面しながらもそれらに真向かう地域の方々の様子を伝えたいと思い、この祭りの取材を提案しました。

地域創生アプローチ3年 Dさん(Iチーム)

取材をするまでは祭りの継承についてあまり深く考えたことはなかったですが、取材を通してこの町に住む若者として私は何ができるだろうかと考えるようになりました。また、多くの地域の方から祭りに対する熱い思いを聞くことができ、地元愛が深まるとともに、地域の誇りであるこの祭りを絶やすことなく続けていきたいと、改めて強く思いました。

今回私たちの取材を快く受けてくださった安居地区の皆様、本当にありがとうございました。



安居地区の伝統行事「オシッサマのお渡し祭り」



撮影の様子

『ふくいシネマラボ』 トークセッションの開催



本年度後期は、グローバルアプローチの2年生と3年生合同チームが、福井市出身の映画プロデューサー、渡邊一孝氏が手がけた日本とミャンマーの合作映画『僕の帰る場所』の県内初上映（2019年2月9日～、於 福井メトロ劇場）に向けて、二つの取り組み（①映画に関する理解を深めるための取り組み、②映画の福井県内初上映を支援する取り組み）を行いました。

その成果発表の場となったのが、映画の公開日に先立つ2月3日（日）に、大学連携センター「Fスクエア」（アオッサ7階）において開催された学生主催イベント「ふくいシネマラボ」です。テーマは、「地方にとっての“小さい映画”と“小さい映画館”の在り方」。「小さい映画」（＝『僕の帰る場所』）に関する渡邊氏の講演と「小さい映画館」（＝福井メトロ劇場）に関する同劇場代表の根岸輝尚氏の講演、それに両氏と学生たちがパネリストを務めたト

ーク・セッションからイベントは構成され、マスメディア（新聞・テレビ）やポスター・チラシ、SNS等を通じた宣伝・広報活動の甲斐もあって、県内の映画関連諸団体の関係者など、映画に関して一言をお持ちの方々に多数ご来場いただきました。

今回のイベントを通じて、映画作品の制作が商業ベースに左右されるあまり、その多様性が損なわれつつある現状、そして、商業施設と一体化して売れ筋の作品を上映するシネマ・コンプレックス（通称シネコン）に客を奪われ、ミニ・シアター系の映画館の経営が逼迫している現状に対する問題意識を、世代を超えて共有することができた（少なくともそのきっかけを作ることはできた）と言えるでしょう。福井メトロ劇場よりお借りした手描きのものを含む貴重な映画ポスターの数々が、3時間にわたるイベントに華を添えてくれました。

「ふくいシネマラボ」広報用ポスター



トークセッションの様子

GCS Newsletter No.4 2019.02.28

編集:福井大学国際地域学部: Newsletter編集委員会

〒910-8507 福井県福井市文京3丁目9-1 TEL 0776-27-9936

School of Global and Community Studies, University of Fukui